

■事業

隠岐の島産だし粉末を使ったティーバッグ型だしパックの製造販売

■対象類型

革新的サービス 新規顧客層への展開、ブランド力の強化、顧客満足度の向上

■導入機械装置

粉末自動充填包装機

「美味しまね」認証を取得
製粉機を導入し商品開発

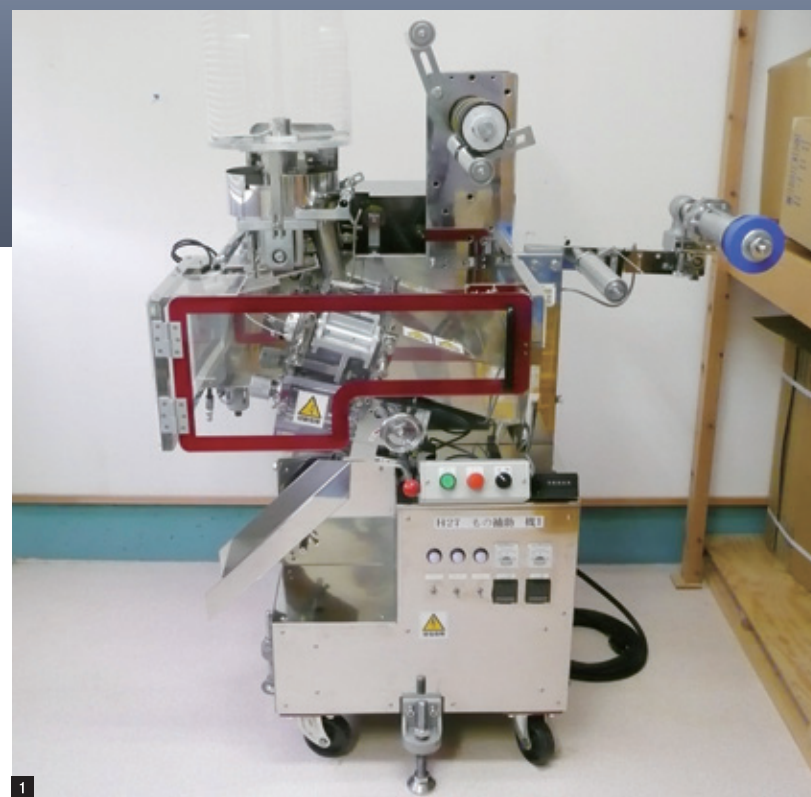
道路や河川工事など主に土木分野の公共事業で実績を重ねてきた有限会社横地建設。ところが、平成10年をピークに、急速に仕事量が減少。「建設業に限界を感じ、思索した結果『食』というキーワードにたどり着きました」と社長の長谷川聡さん。建設業のノウハウを生かせる水稻栽培に参入する決断をした。平成18年に試験的に4㍓を栽培。翌年には、県の農業参入支援事業を利用して施設や農業機械を整え、本格的にスタート。高齢化や後継者不在の地元農家から生産委託があり、栽培面積は13㍓余りまで広がった。大豆、小麦、大麦など転作作目も手掛け、地域の農業の担い手として根を下ろしている。米は「コシヒカリ」と「きぬむすめ」が、「美味しまね」認証を取得している。米を売るだけでは収益が上がらない。平成21年には付加価値を高めるため、製粉機を導入。米粉を町内のパン店に納入し米粉入りパンを委託製造してもらい個人客に宅配で販売するほか受託製粉も行っている。製粉技術を生かして、トビウオの干物、干しシイタケで新商品を開発、「よこじふあーむ」としてネットを中心に販売している。健康ブームを背景に、関東や東北からも注文があり、リピーターも多いという。

「飛魚(あご)だし」主力商品に
ティーパック型に改良し販路開拓

トビウオの粉末は、100㍓パックで販売、収益率の高い商品だ。主力商品に育てるため、使い勝手が良く、市場ニーズに合ったティーバッグ型への改良を思い立ち、粉末自動充填包装機をものづくり・商業・サービス新展開支援補助金を活用して導入した。試作品開発にあたっては、ティーバッグの形状を検討、粉末の粒度や乾燥状態を変化させ調整を重ねた。特に、乾燥状態は、水分が多いと粉末量が少なく充填されるため細心の注意を払った。当初は機器の操作に不慣れなため、失敗が続いた。首都圏のメーカーから電話で説明を聞いて習熟度を高め、満足できるレベルまでこぎ着けた。試作品を地域の人たちや、従業員に使ってもらい、調査票を配布して意見を集約。「扱いが簡単で便利である」という狙い通りの評価を得た。



代表取締役 長谷川 聡



1

1 新たに導入した粉末自動充填包装機



2

2 農業参入時に導入した米の乾燥調整施設



3

3 材料を粉末にする高速微粉砕器

単一素材、無添加にこだわり
原材料確保が最大の課題

パッケージデザインは、県の隠岐ユネスコ世界ジオパーク新商品開発助成事業の助成を受け、専門家が原案を作成。ターゲットとしている「手軽に本格的な料理を作りたい主婦」「料理があまり得意ではない若い女性」「隠岐のあご(トビウオ)だしをお土産にしたい観光客」の目にとまるデザインにしたい、という思いからやりとりを重ね、平成30年3月によりやく完成、4月から販売を開始した。これまでの経過で想定外のアクシデントがあった。トビウオの不漁だ。原料は、地元漁業者から調達しているが、例年の10分の1程度しか仕入れることができなかった。商品完成に併せて、地元の産直市のほか隠岐汽船のターミナル、隠岐空港など販路を開拓する腹づもりだったが、肝心の商品の量を準備できない事態に陥った。「原材料確保は最大の課題。トビウオ漁の推移を注視したい」と長谷川社長。「単一材料、無添加」のこだわりはあるが、場合によっては、商品のバリエーションも検討する考えだ。

■Company Data

有限会社横地建設



よこじふあーむの商品

代表者名：長谷川 聡
創業年：昭和27年
設立年月日：昭和62年4月1日
資本金：10,000千円
従業員数：5名
業種：総合工事業、農業、製粉業
売上：60百万円
住所：〒685-0434 島根県隠岐郡隠岐の島町中村414-2
電話：08512-4-0221
FAX：08512-4-0220
URL：http://yokoji.net/